

優秀賞

きらきらした人

東京都千代田区立神田一橋中学校三年 松澤 薫

「あなたは私の宝物だからね。」
母は私に笑ってそう言った。

私の母はいつも家族や周りの人たちのために働いている。それは医者として、母として、時には一人の人として。

小さい頃、何度か見た働く母の姿はとても格好良かった。患者さん一人一人のことを考えているのだと、幼いながらに思ったのを覚えている。また、仕事をしているにもかかわらず、家では食事を作り、掃除や洗濯を一人で何も言わずにこなす。道でハンカチを落とした人を見れば、走ってその人の元まで届けに行く。そんな母の姿は、ほっとするような温かさをもち、きらきらと輝いていて私の憧れだった。それと同時に疑問にも思っていた。どうして人のためにあんなにも一生懸命になれるのだろうか、と。

私が悩み、苦しんでいる時も母は変わらなかった。私の愚痴やマイナスな発言を嫌な顔をせず、また否

定することもなくただ受け止め、相談に乗ってくれ
る。私が眠れないと言えば眠れるまで抱きしめ、ず
っと一緒に居てくれる。友達に嫌なことを言われた
と話せば、私以上に怒り、慰めてくれる。そんな母
を私はまた不思議に思った。

「どうして私のことでそんなに真剣に悩んでくれる
の。」

と聞くと、母は言った。

「あなたは私の宝物だからね。愛しているんだよ。
だからあなたにはいつも幸せでいてほしい。」

私は納得した。母がいつもまもっていた「きらき
ら」は「愛」なのだ。そしてその愛は私の幸せを
照らす光なのだ。

愛するということはとても身近だけれど、何かと
聞かれてすぐに答えられる人は少ないだろう。私も
昔はそうだった。でも、今なら答えられる。愛する
ということは相手の幸せを心から願うことだ。母は

患者さんと話している時も、一人で家事をしている
時も、ハンカチを持って走っている時も、その先に
ある誰かの幸せを願っていたのだろう。

私は母から教えてもらった。愛するということとは、
相手の幸せを願うこと。愛は周りの人だけでなく自
分自身も笑顔にすること。そして愛を持つ人はきら
きらと輝くこと。私も母のような温かくて「きらき
らした人」になりたい。そのためにもまずは身近な
人の幸せを考えることから始めよう。

